

# 廃業工場の道具アートに

廃業した町工場の息吹をアートで残そう――。美術作家で東京工科大准教授の酒百宏一さん(45)を中心としたプロジェクト「オオタノカケラ カケラでつなぐ大田のタカラ」が、来月の作品展示に向けて進行中だ。機械部品や工具を「フロッターージュ」という手法で紙に写し取る試みで、酒百さんは「職人が大切に使った一つ一つの道具をアート作品でつなぎたい」と話している。

【山本浩貴】

フロッターージュは、フランス語の「こする(frotter)」に由来する。木や石などの凹凸面に紙を置いて上から鉛筆などでこすり、図柄を紙面に写し取る描画技法。酒百さんは全国各地で街の歴史の記憶を、

美術作家・東京工科大  
酒百宏一准教授

来月5、6日 大田・矢口で展示

ワークショップでは参加者も選んだ部品や工具を色鉛筆で紙に写し出していた。大田区で

フロッターージュで写し残してきた。約4000の町工場が集まる大田区も、長引く不景気と後継者不足で廃業

が後を絶たず、ピーク時より半減。町工場の跡に建つマンションを見て、「工場があったモノ作りの歴史を残したい」と考えた。

今年、同区北糶谷で機械工場を営んでいた職人が亡くなり、工場は閉鎖。工場にあった



旋盤機などはスクラップの予定だったが、酒百さんは遺族から譲り受け、アート作品の制作を始めた。

プロジェクトでは、一般から募集した参加者とワークショップを開催し、色鉛筆と紙を使い、約1000点の機械部品や道具を写し出している。最終的には一つ一つの作品をつなぎ合わせ大きな作品にする。酒百さんは「大田のモノづくりの歴史がアートを通して、参加者や見た人に伝われば」と話す。

作品は10月5、6日、大田区矢口の「くひらほ多摩川」で展示される。午前9時半から午後5時まで。9月28日のワークショップは定員に空きがある。問い合わせは、NPO法人大森まちづくりカフェ(電話03・59335・7881、メールart@oomori-cafe.com)へ。

## 図柄を紙に写し取る描画技法



フロッターージュという技法で作品づくりを続けている酒百宏一さん(大田区)

支援学校「カレッジ」

特別支援を卒業した障害者向け「カレッジ」10月、新宿に開校する制で、職業社会で必要ミユニケールを身につけ指す。

運営する同様の教所のほか、害者向けのむ社会福祉ゆたか福祉(県鞍手町)

東村山市跡で、広葉に使い、中の縄文時代の発見されたが使われて葉が使われのが見つかる



蓋に広葉漆パレット 東村山・

眠れない。気持ち

うつ葉が処方されて数

えは結構です。効果が

ような話だが、